

「宇部市本庁舎建設基本計画(素案)」市民説明会【会議録】

日 時 平成 28 年 7 月 11 日 (月) 18 : 30 ~ 19 : 55

場 所 西岐波ふれあいセンター

- 1 「うべの情報 知っちょる会」について (~18:35)
- 2 「宇部市本庁舎建設基本計画 (素案)」について (~19:10)
- 3 質疑応答 (~19:55) ※以下、要約

【市 民】 基本計画とは、どういうことが決まるものなのか。基本計画がなぜ必要なのか教えてほしい。

【市】 基本計画とは細かいことを決めるのではなく、大きな方針を決めるものである。どういった庁舎をつくっていくのか、どんな機能を持たせていくかを決めていき、その概算事業費も示していく。この基本計画をもとに、次に基本設計、実施設計と進めていくが、その前段となる考え方を整理していくものである。

【市 民】 基本計画では平面的なスケールを決めていき、次の実施計画では立体的なスケールを決めていくという違いがあると聞いたことがあるが、そうではないのか。方針であれば、基本構想で決まっているのではないのか。

【市】 基本計画とは、こういうパターンの配置計画が考えられるとか、概算事業費ではこういうものが考えられる、機能についてはこういうものを検討していくなどの大きな方針を示していくものである。
この方針に基づき基本設計では、必要な機能をどこに配置するかなどの平面計画を決めていく。基本設計が完成した段階で、詳細な設計である実施設計を進め、実際に工事をする直前の設計をしていくことになる。

【市 民】 基本計画(素案)では、A~Cの3案を用意しているが、基本設計でも3案それぞれ3つの設計をするということか。

【市】 基本計画(素案)では、庁舎の配置についてゾーニングという形で3つのパターンを示しているが、この3つのゾーニングを基に、宇部市としてどのゾーニングが一番良いかをメリット、デメリットを整理し、基本設計の中で決めていく。

【市 民】 宇部市の新庁舎建設全体の計画の中で、実施計画というのではないのか。

【市】 実施計画というものは宇部市の新庁舎建設の工程には入っていない。基本計画策定後に基本設計、実施設計と進めていく。

【市 民】 税務署の職員数や延床面積と現在の市役所との比率はどうなっているのか。

【市】 国との基本的な合意に至ったということで税務署の規模については、今後詳細をつめていくが、仮という形で、現状を踏まえた 1,000 m²と記載している。単純に職員数だけでは決められないので、共有部分をどうするかなどを今後協議しながら延床面積を決めていきたいと考えている。

【市 民】 一般的には、合築ならば宇部市の持ち分の比率と税務署の持ち分の比率が何%かを定めるはず。そこが流動的で決まっていなければ、基本計画や基本設計はできないのではないのか。

【市】 税務署部分の延床面積については、基本設計の中で決めていきたいと考えてい

る。今は、あくまでも合築について基本的な合意に至ったという段階なので、それぞれの持ち分を何%にするかなどは今後決定していく。

【市民】 設計に入る前に決まるのか。基礎となる数字が決まらないと設計はできないと思うが。

【市】 基本設計の段階で決めていく。国とも6月に連絡会を立ち上げており、そのなかで協議をしながら最終的な数字を決めていく。

【市民】 まちづくりの場、市民交流の場という大変立派な話が出たが、現在、港町庁舎に入っている教育委員会が新庁舎に入るか入らないかで大違いだと思う。

地域づくりについてはふれあいセンターを中心に地域の基地は出来ているが、市への依頼や情報交換の際には、港町庁舎まで行かなければならず、活用する側からすると不便さばかり感じている。また港町庁舎にはエレベーターもないので、障害者の方が依頼しに行くのも困難である。

この新庁舎の計画には、その辺も考慮して考えてほしい。

女性や高齢者はインターネットもしないし、ワークショップにも参加しにくい面がある。今日の説明会もこれだけの人数しか集まっておらず、説明が不十分だと思うので、細かいところまでしっかり声をかけて説明してほしい。

【市】 港町庁舎を今後も使用していくという話をしたが、教育委員会がそのまま港町庁舎に残るということではない。

これから窓口機能等を考えるに当たり、どの部署をどこに配置するかを基本設計のなかで決めていくので、いただいた意見についても踏まえて検討したい。

また、今後市民の声を聞かずに基本設計を進めるわけではなく、段階に応じて意見を伺いながら進めていくよう考えている。

今回、参加者が少なかった事に関しては、市としてもこの基本計画（素案）を市民に知ってもらいたいので、この説明会だけでは終わらず、各ふれあいセンターの館長に、27日のパブリックコメントまでに開催する会議などに出席する場合は、基本計画（素案）の説明をしてもらい、意見があれば出してもらおうという機会を設けていく。

【市民】 まず一つは、現庁舎の位置に新庁舎を建てるということだが、非常に危険であるので、場所を変えてほしい。あの場所は海を埋め立てただけで、地盤が非常に軟弱である。また東南海地震の際に3.2~3.5Mの津波が起きると言われているが、市役所の1階がすべて流される可能性もある。建設位置について、防災の観点が入っていない。機能や規模を考えるなら、例えばときわ公園の空いているところなど、もう少し広いところに移すことも検討してほしい。また、説明のなかで「重点整備地区」や「周辺整備のイメージ」とあったが、新庁舎を建てなければできないことなのか、現在の庁舎でもできることはないのか検討してほしい。防災機能は何階にできるのか。

二つ目は、場所と費用について市民アンケートを実施してほしい。シンポジウムの時には費用が103億円となっていたが、今は108億円となっており、最終的に東京オリンピックの期間に建設すれば140億、150億円はくだらないとは思っている。重要なポイントについては、市民の意見を聞いてほしい。100周年は良いポイントではあると思うが、少し遅らせてでも安く建てるようにしてほしい。

【市】 建設場所については、平成24年から本格的に庁舎建設の検討を進め、市民・議会からも意見をいただきながら進めていき、平成27年3月に「本庁舎建設基本構想」を策定した。その中で、本庁舎は早急な建替えが必要であることと、現在地及びその周辺での建替えが現実的であることを打ち出している。

なぜこの場所で建替えるかだが、「宇部市にぎわいエコまち計画」において、宇部市の顔としての中心市街地の魅力向上を図っていきたいという中で、3つの重点整備地区の1つに「市役所周辺地区」を設けており、この場所で建替えることによって、まちの再生を図っていこうと考えているので、他の場所に移すことは考えていない。

軟弱地盤であることや、海底炭鉱があったことを考慮し、地盤改良なども必要になると考えられるが、市としては、それらの対策をしてでもやはり宇部市の顔となる中心市街地に建替えるべきと考えている。

次に、南海トラフの巨大地震による津波が起きた場合の影響についてだが、県の津波の浸水想定によると、現在地での津波による浸水の被害はないとされている。

また、高潮については、県が最高潮位の予測を出しており、山口宇部空港での潮位が5.44mとなっている。これに対して、現庁舎地盤の高さが4.7mであり、約70cmの浸水が想定されるため、防災拠点機能及び機能維持のための発電設備等については、1階ではなく2階以上につくるべきだと考えている。

これらについては、建設位置の地盤の高さ等を考慮しながら、基本設計の段階で検討していく。

市民アンケートについてだが、市民アンケートで建設場所を決定することは考えていない。現庁舎、市駐車場及び税務署敷地で考えていく。

次に100周年に向けて、建設を急ぐ必要があるのかという指摘だが、市としても100周年にこだわっているわけではない。言われるとおり、東京オリンピック・パラリンピックや震災復興で建設物価等が高騰しているため、基本・実施設計が終わった段階で建設時期を判断していく。

100億円が140億円にもなるのではとのお話だったが、物価高騰の影響がどの程度なのかは、現時点では予測がつかないため、設計により詳しい額が分かった時点で判断していきたい。

シンポジウム時の103億円から108億円に上がったという指摘については、103億円は庁舎部分のみの額であり、今回は税務署との合築の基本的合意を受けて、必要面積を再計算した結果の108億円である。

最後に、市民交流の場を現在の庁舎でもできないかという質問について、ユニバーサルデザインへの配慮等については、できる範囲で進めていきたいと考えているが、市民利用機能やまちづくり拠点機能については、新たに面積が必要なので、現庁舎ですぐにというのは難しいと考えている。ただ、建設までに時間もあるので、できる範囲で問題点を解決していきたいと考えている。

【市民】 専門家に、地震規模や津波に対する防災対策についての答申を求めることはしたのか。また、費用は、108億円のうち5億円を税務署が負担することになるのか。

【市】 税務署と基本的な合意をしたのは、現税務署の土地と建物について市が取得し、新庁舎の税務署部分については用地も含め税務署が取得するという。その支払方法については、双方が負担すべき額を確定し、上回る方が差額のみを負担する方法等が考えられるが、まだ決まっていない。

防災に関しては、県の津波想定区域・高潮浸水区域等のデータをいただき検討している。また今後、防災機能の検討については、基本設計の中で専門家の意見を聞きながら進めていこうと考えている。

【市民】 熊本地震では、新しい基準で建てられた建物も震度7の地震が2回きたことで崩れている例がある。国の基準は1回の地震で倒れるかどうかは見えていない。宇土市庁舎が地震で崩れた例や宇部空港が高潮で浸水した例等もみて、高潮・津波が来たときに庁舎が浸からないようにしてほしい。

それと、私もまちなかの活性化で新天町や銀天街でイベントをやったことがあるが、今さらの再生は無理だと思っている。

【市】 高潮による浸水想定については、500年に1度の確率での計算である。建設時期については、建設物価の高騰もあるが、今回の熊本地震で（庁舎が被災したことにより）緊急対応、防災活動ができなかったという事実もあることから、総合的に判断したいと考えている。

【市民】 新庁舎建設については、100周年にはこだわらないが、基本・実施設計には着手したいという執行部の意気込みを感じた。

基本計画策定が8月中となると、9月以降に設計者が選定されると思うが、設計委託料の予算については、今年度当初予算には計上されているのか。

また、設計者選定については、新国立競技場のような事態にならないよう、透明性・公平性を期する上でも、公開のプロポーザル又は公開のコンペが望ましいと思うが、こういった形で進めようと考えているか。

【市】 設計費用の予算計上については、今年度当初予算で基本設計相当の額を計上し

ているが、基本設計と実施設計を個別に発注するのか、一括で発注するのかという方針を現在検討中。

設計者選定方式については、コンペ方式、プロポーザル方式、競争入札方式等があるが、基本計画案では、プロポーザル方式が妥当との結論を記載しており、現状では、プロポーザル方式での発注を考えている。ただし、公開で行うかどうかは未だ方針決定していないため、ただいまのご意見も踏まえ、今後検討していきたい。

【市民】 市道真締川東通り線は敷地に取り込めないのか。

【市】 敷地の西側に沿った市道真締川東通り線については、決定事項ではないが、新庁舎敷地に取り込むのではなく、真締川公園の敷地として取り込みたいという方向で検討している。

【市民】 そうすると、自動車を通るということか。

【市】 公園の一部として、真締川公園の方に取り込みたい。市道を廃止するかどうかは未定。残して、人だけが通れる道にするという方法もあるため、今後検討していきたい。今回は、新庁舎敷地内の説明ということで含めていないが、市としても、真締川公園と一体的に整備するという方向で進めていきたいと考えている。

【市民】 市民活動支援機能については、現在の市民活動センターや観光コンベンション協会などが入居するようになるのか。

【市】 基本計画案では、図書コーナーやギャラリーを兼ねた「情報発信コーナー」や150～200人を収容できるような「多目的ホール」の設置を基本設計で検討し、併せて、市民が共用で使える会議スペースとしての利用についても検討していくこととした。

【市民】 それなら、機能が分散するのは良くないと思うので、同じような目的で設置されている市民活動センターとも協議しながら検討してほしい。

【市】 基本設計段階で、協議しながら検討していきたいと考えている。

【市民】 この説明会では、質疑をとということなので、意見については、パブリックコメントに提出し、一点だけ質問したい。

今日の説明を聞いていると、基本計画の位置づけ、内容、建設場所を現庁舎周辺に決めた理由が、はっきりしておらず、説明を聞いても理解できない。基本設計及び実施設計までは早期に着手したい。発注時期は検討するというような表現があるが、完成時期、着工時期を少し曖昧な状態にしておきながら、なぜ当面の基本・実施設計を急いでいるのか。

【市】 急いでいるということではないが、新庁舎をどうしていくかについて、段階を踏んで、きちんと決めていきたいと考えている。

【市民】 それなら、完成までの計画（スケジュール）はあるべきだし、示すべきではないか。

【市】 建設時期については、建設物価等の高騰も考慮すべきと考える中で、市制100周年に合わせる必要があるかということについて決断できていない。反面では、熊本地震の状況を考えると早く建替えなければという思いもある。そのため、実際に新庁舎建設にどれくらいの費用がかかるのかをきっちり算出したうえで建設時期を判断したいと考え、今年度基本設計に着手する予定とした。

【市民】 最後に一言。こういうことに関して造詣の深い人達は、市役所や市議会以外にもいる。市民の中にも、市役所の方が経験したことのないような経験をした方々がたくさんいるし、ある分野では、職員よりもスペシャリストだという方もいるはず。もう少し市民に対してリスペクトをしてほしい。市民の声を聞くのは、有益なことを含めて聞くという姿勢で進めてほしい。基本設計の位置づけや実施設計との兼ね合いなどの説明は、私だけかもしれないが説得力に乏しい。東南海地

震を踏まえたときに現庁舎の位置でないといけないという説明がなく、にぎわいを創出するための波及効果を出すために現庁舎の位置でないといけないという理由の説明だった。そういうところをきちんと色々いる市民が理解できる納得できる説明を今後していただきたい。それが、市民の声を聞き、市民とともに歩む市政につながっていくのだと思う。

【 市 】 新庁舎の建設に当たっては、様々な検討をしていかななくてはいけないと考えている。今後も事業進捗に応じた市民参画を図り、市民の皆さんの声を聞きながら設計を進めていきたいと考えているのでご協力をお願いしたい。